

令和5年度 学校研究について

1 研究主題

主体的・対話的に学ぶ子の育成

～自ら学びを調整し、ともに学び合い、課題を解決する算数科の授業づくり～

2 主題設定の理由

本校では、8年間、算数科の研究・実践を進め、昨年度は「主体的・対話的に学ぶ子の育成」という研究主題で主に以下の3つの内容について研究を推進した。

- ① 主体的・対話的な学びを促す授業づくり
- ② 根拠や筋道を明確に表現する場面を設定した単元構成の工夫
- ③ 自己の学びや成長を自覚化できる振り返り

取組の成果として、「南郷丘の子の授業」スタイルが教師にも児童にも浸透したことで、児童は見通しを持ち、安心して学びに向かうことができた。目指す授業の具体を共有したことで、いつでも「南郷丘の子の授業」に立ち戻り、粘り強く考える姿や学び合う姿をほめたり励ましたりすることができた。

一方、課題も挙げられる。学期末の検証テストの結果を見ると、児童に根拠や筋道を明らかに表現する力がついてきているものの、まだ満足できる結果とは言えない。「説明名人になろう」で、表現モデルを共有したことで、児童の中に筋道立てて根拠を明確に表現しようという意識はついてきているものの、大事なポイントを押さえ、短い言葉で過不足なく表現する力はまだ弱い。また、主体性は身に付いてきているものの、児童が自ら学びを調整し、自立した学習者となるようにも取り組んでいきたい。これらの課題を改善・克服するために、今年度は上記のように研究主題を設定し、以下の3つの内容で研究を推進する。

①主体的・対話的な学びを促す授業づくり

令和5年度は、授業スタイルを一層定着させ、児童が主体的に課題解決に向けて学び合う授業を目指していく。更に、個別最適な学びの実現に向け「自由進度学習」を取り入れ、児童が学びを調整し、自律した学習者となるよう研究を進めていく。

②根拠や筋道を明確に表現する場面を設定した単元構成の工夫

令和4年度は、根拠の示し方や筋道の立て方の具体について、教師と児童で共通理解を図ることができた。来年度も今年度の取り組みを継続して実践していく。単元構成表と授業ノートで毎時間の授業を組み立てる際には、根拠や筋道を明確に表現する場を設定する。その場面では、解決の見通しを持ち、用語を吟味し短い言葉でも的確に伝えられる児童を目指していく。

③自己の学びや成長を自覚化できる振り返り

友達の考えから新たな気づきを得て、自分の学びを深めていくことは、学びの自覚化においても大切な要素であると考え。友達の考えをノートに残すことで、課題に対して「より分かりやすい方法」を自分なりに整理し、次の学習に活用することができる。令和5年度も、この取り組みを継続していく。

また、「自己の学びや成長」の中身にもこだわっていきたい。学び合いによる考えの深まり、自分や学級の成長、次の学びにつながるもの、などが実感できるような振り返りを行っていく。

3 めざす児童像

- ・主体的・対話的に課題を解決しようとする子（指針2・6・8条）
- ・必要な情報を読み取り，根拠を明確にして筋道を立てて自分の考えを表現できる子（指針3・5条）
- ・自己の学びや成長を自覚化できる子（指針4・8条）

4 研究の重点（取り組みと検証）

①主体的・対話的な学びを促す授業づくり

取り組み	検証	
	教師	児童
授業スタイルの確立 発問・問い返しの吟味	実施検証 アンケート検証	アンケート検証 板書

②根拠や筋道を明確に表現する場面を設定した単元構成の工夫

取り組み	検証	
	教師	児童
教材研究の強化 （授業ノート，学力調査活用表を活用） 算数用語の定着と活用 表現モデルの共有化	実施検証 アンケート検証	アンケート検証 検証問題 ノート

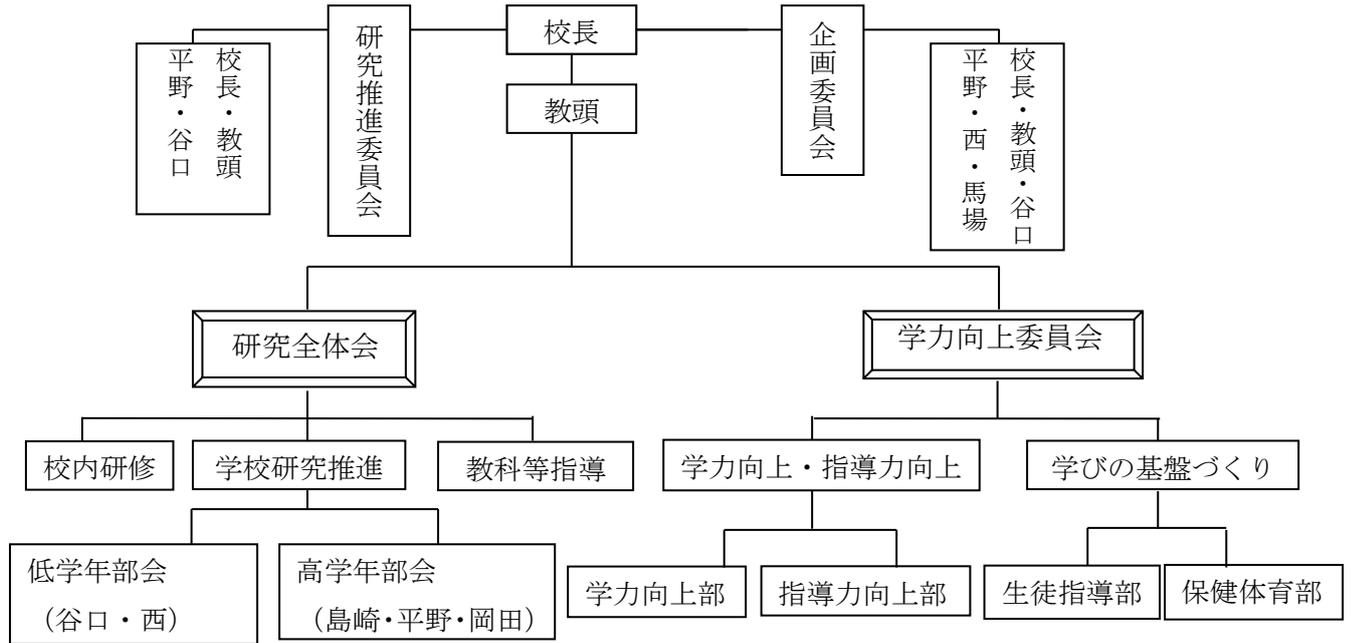
③自己の学びや成長を自覚化できる振り返り

取り組み	検証	
	教師	児童
友からの自覚化・再構築	実施検証 アンケート検証	アンケート検証 ノート

5 研究の方法

- (1) 研究授業
 - ・全学級実施
 - ・「南郷丘の子」を軸にした授業展開
 - ・模擬授業による指導案検討
 - ・発問・問い返しとそれによる児童の姿を共有した授業整理
 - ・授業改善の視点の共有
- (2) 理論研究
 - ・講師招聘
 - ・文献研究
 - ・他校の授業実践の研究

6 研究組織



7 研修計画

月	研 修 内 容
4月	研究主題の設定 研究計画 研究構想図の共通理解 めざす授業像の共通理解
5月	児童の実態把握と取組についての共通理解 研究授業の視点や指導案の形式についての共通理解 計画訪問に向けた研修会（模擬授業・指導案検討） 6年研究授業
6月	計画訪問を振り返って研修会 研究授業（交流オンライン授業）
7月	1学期の成果と課題
8月	各種研修報告 教材研究 指導案検討 これまでの研究実践の検証①⇔2学期以降の取組についての共通理解
9月	研究授業（自由進度学習）
10月	これまでの研究実践の検証②⇔11月以降の取組についての共通理解
11月	16・17日へき復教育研究大会
12月	研究のまとめについての共通理解 今年度研究実践の検証
1月	研究のまとめ⇔来年度の研究の方向性について
2月	来年度の方向性の検討
3月	来年度への方向付け

